



富
永
久
男

文章の中にある言葉は、辞書の中にある時よりも美しさを加えていなければならぬ。

とは芥川竜之介のシユ儒の言葉の中の一文であるが、これを美しく受取るのは冒頭の題から考究する場合、読者でなければならぬのは論をまたない。そしてそこに読書論の介在する恰好なところを見出すのです。

は、書物に助力を求めることであり、自分達の知識と、ものの考え方が及ばない時に、それを書物に訴え、書物によつて吾々の知識よりも広汎な見識と、より純粋な考え方とに導かれ、そうして自分達の頼りない心に対して、あらゆる

先日公民館に於いて小柳氏の「このごろ圖書を若い人達が非常に借りるのが多くなつた。そしてそのことによるこぼしい。しかし、それが評判になつたようなものが多い。自分もそれを読んでみて果してどれだけそれらの人達が理解して読んでいるのか疑わしい。特にひどいのは本の中にある言葉に、ある箇所に傍線まで引いておく。だからそれを文章の中の言葉として、ある役割（即ち情緒、印象、象徴等々）を果しているものとして見ないで、單にその言葉の辭書の意味として興味本位に受け取つて

時代の批判者や忠告者の一致した断案を書物から受けることだ。ということになります。しかし勿論読書の目的はこれのみならず、單に娯樂の意味にのみ存在することも亦事実です。しかしこの意味に於いてすらラスキンの……一致した断案を書物から受ける。ということは拒むことは出来ないのです。

だとすれば小柳氏の云う不安もまた、我々は眞剣に考えてみなければならぬのではないか。と思うのです。

ゲーテの言葉の中に、ある読者は判断しないで享樂

する。ある読者は享樂しないで判断する。ある読者のみが享樂しながら判断し、判断しながら享樂する。と云つておりますが、この言葉は小柳氏への不安に対する肯定と解決になります。そしてそうすることに於いてのみ、文章の中に於ける言葉を辞書の中に於けるそれよりも美しく再発見することが可能なのです。どうかそういう方向に公民館の

書物が多く利用されることを期待し、ひとりでも書物に傍線を引いたり、落書をしたりすることのない利用をいたしたいものです。

最後に読書に於ける心構えについて、三の有名人の言葉を紹介しておきます。

正しい読書を阻害する敵は自尊心、臆病、激情、批評心等である。——エミル・フアゲ——

お盆と祭りは……

みんな楽しく

近年農村の経済状態は、
 収入が割合に増加していな
 いのに、消費の面は日一日
 と膨張している。にもかか
 わらず依然として昔からの
 慣習が私達の日常の生活の
 中に無批判の儘多く継承さ
 れているそこでここにみな
 な一緒になつてお盆とお祭
 りを。サイフの中の出入
 りもなかなか忙しい。そん
 なあわただしい中にもお盆
 には迎え火をたいて祖先の
 思い出や、業績を偲んで親
 類縁者が仏様まいりにくる
 慣習は、人工衛星時代でも
 変らぬ人の世のゆかしいし
 きたりである。

「お盆と正月が一緒に来たようだ」ということは、この上もなくたのしいことと、また忙しいことの形容詞でもある。

春以来タン精した作物もお盆までのシヨウヤクが出来、不出来のカギをにぎつ

て普及した民踊が、青年会や婦人の人たちの間に、非常に好評で、なかなかさかんであるが、郷土色ゆたかな盆踊りが「このちよりの若い衆」たちから忘れ去られていることは淋しい。つまりの盆踊りのな

どんな問題にせよ、それを読む最善の法は、まずその問題に対して反対の立場をとる書物から読みはじめることである。そうすればデマやごまかしに乗らないこと請合であり、その問題を読む準備が一層よく整うものである。――林悟堂――

一般世間の注意をひき評判となつた書物は読むに及ばない。――シヨウペン・ハウエル――

別な信仰から行われるものを除くと、大体八月下旬型と、九月下旬型であるが、これが又非常にばらばらである。一緒にやつた方がよいとわかつてながら、なかなかその不合理な面が解消できない。

「昔からこうやつてきたから」とか一年に一度の祭りぐらい」という考え方では、いつになつても生活の合理化などのぞめない。このこ

かにも、相馬盆歌や、北海盆歌などにない独得の味があり、他郷にある人たちもお盆を恋い、帰郷してくるのであるから、みんなが輪の中へ入つて、楽しむことのできるようにありたいものである。

さてお盆が終ると殆んど連日どこかの部落からさわやかな秋風にのつて祭り太鼓の音が聞えてくる。

ではないはずである。日常の生活のなかにも、勿論いろいろな問題が「昔から……」「年に一度……」と云うことで、忙しい思いをしたり、余計な金や気をつかつたりして行なわれていることは、人工衛星時代の人間らしくもない話である。よその部落も一緒にやるならやつてもよいという意見も多かったが、人がや

古来秋祭りの意義は、豊かな稔りを神に感謝し、村中摘つて祝いの盃をかたむけて、やがてむかえる獲り入れの仕事に具えて、休養をとり、みんなで祭りを楽しむという目的で行われてきたものであるが、いま行われている祭りの実状はどうだるうか。

中里村の祭りの期日は、特

ればやらないということではなく、もう一步進んで一緒にやるにはどうしたらよいかを、みんなで話し合うことが必要じゃないかうか、そこではじめて時期はいつごろが良いか、お客よびはどうするか、話しが建設的になつてくるのではなからうか。

二、三男の問題

大人の言分、青年の言分

去る七月十九日水沢小学校で第五回郡市社会教育大会が開かれた。

り、青年の言い分や青年への注文などなごやかなふんいきの中にも切実な問題を

大会は、郡市内の一般市町村民や社会教育関係者およそ六百名の人が集り、中里村からも、青年会、婦人会、PTA等から百三十名が参加し、『部落青年団はどんな活動をやっているか』、『くらしに役立つ婦人会活動とは』などをテーマにしたそれぞれ十分科会に分れしんげんに話し合いがおこなわれた。

話し合いの中から
◇二、三男の問題
二、三男の問題は農村に於いては非常に深刻な問題だが、一般に個々の問題として片づけられている。人口のなかで二、三男の数が多いのであるからそれだけに個々の問題として片づけられない問題だ。地域環境

中里村田沢地区婦人学級の活動のようすの発表からはじまり、地域の問題や日頃のなやみ、実践のようすなど身近な問題を取りあげ、婦人の人達からは父親学級の開設が要望された。条件、農業の経営状態などを考え、対策を講じなければならぬ、二、三男達が家に居る理由として一ばん多いのは家庭の事情からであるが、二、三男は家の人達が将来のことについて

なかりき

發行所
中里村公民館
印刷所
十日町新聞社

心配したり考えてくれたりしていいかと訴えた。したがって将来の希望や見とおしについては、ばく然とした気持ちしかもつていない実情ではないかということであつた。

このような実状はかならずしも全般的なものでないとしても二、三男の立場を考へないで單なる手間不足や経済的などの理由のため家にいつかせることは親達も考へてみなければならぬ。学校教育でも二、三男達のために十分な職業教育や進路指導がなされることゝがのぞましいが、できるならば定時制高校などを利用して教養や技術を身につけることも必要だ。中学卒業と同時に就職するにしても、当面の賃金や労働条件だけでなく将来性のある職場を選ぶことが、のぞましい就職に対する考へ方ではないかということであつた。

◇青年の言ひ分と青年えの注文

第十分科会では青年の言ひ分と青年えの注文というテーマで話し合ひがおこなわれた。

話し合ひの範囲は、(1)成人が青年のときといまの青年との比較、(2)そのちがひはどこから来ているか。(3)時代のちがひとして片づけてよいのか、(4)成人はどのようにして青年を理解するかなどの問題であつたが、成人から青年えの注文として

- ◎今の青年は恐りつぽい
- ◎親を親と思わないような行為が多く道徳心にかけている
- ◎自己中心主義で協調性に乏しく大人達と相談しない
- ◎楽しみだけを追つてゐる
- ◎大人はもつと理論的に話し相手になつて貰いたい
- ◎経験主義を重くみすぎる
- ◎計画性や合理性がない
- ◎家柄主義や迷信を重んじすぎる
- ◎いつまでも子供あつかいにする

と活発に意見が出され、それぞれのように解決していくかしんげんに話し合ひされた。結果として、青年には青年の権利がありその権利を大人達は認めず義務のみを強いる傾向が強く、これでは青年は希望を失ひ、話し合ひたいことも話さず大人との溝は深まるばかりでその上社会悪すら副産物として生ぜしめることになる。又大人の理論的、計画性に乏しいのは、永い間

忍従の歴史の中で育つたことによるもので、現実主義を唱えることは合理性からの逃避である。

迷信は案外若い人達が安易に信じてない迄も疑いをもたないのではないか、もう少し科学的合理的な、ものの考え方が必要である。また、とかく青年は「社会の必然性だ」と一言おぼえにきめつけ無計画無批判で人のまねをする。したがって大人達はなかなか賛成しないで「新しがりや」という、レクリエーションなどでも意

国民年金十一月から

今度国民年金という制度ができたことはみなさん御承知のところ、この制度は処出制が基本であります。が、発足時すでに次のような状態にある方々に経過措置として、次の様な人に本年十一月から無処出の福祉年金が特別支給されます。

◇七十才以上の者（年金額一万円）

◇二十才以上で両手両足をなくしたような、身体的活動に大きな支障を来しているもの（年金額一万八千円）

義を正しく理解してやるのはよいがいたづらに精力を浪費し疲労や体力を消耗させるようでは社会の批判、親達の心配も当然で大いに反省の要がある。

最後に大人と青年の時代的ズレについては、今の時代的大人も民主主義を身につけている人が少なくなっているから青年のなかのなげやり的な考え方が取除かれたらはお互いに話し合つてやつて行けるのではないか、ということであつた。

中学校等に在学中の子供を持つお母さん（年金額一万二千円、子供一人につき二千四百円加算）

しかしこの年金は全額国費で支払われるものですから、次のような支給制限があります。

- ◇現行公的年金受給者
- ◇年所得十三万円以上の者
- ◇配偶者に所得税を納付すべき所得があるとき
- ◇扶養義務者の所得税、二万三千六百円以上のとき

国民年金十一月から

今度国民年金という制度
ができたことはみなさん御
承知のところ、この制度
は処出制が基本であります
が、発足時すでに次のよう
な状態にある方々に経過措
置として、次の様な人に本
年十一月から無処出の福祉
あります。

中学校等に在学中の子供を
持つお母さん（年金額一万
二千元、子供一人につき二
千四百円加算）

しかしこの年金は全額国
費で支払われるのですから、
次のような支給制限が

◇夫と死にわかれて小学校
 年金が特別支給されます
 ◇七十才以上の者（年金額
 一万円）
 ◇二十才以上で両手両足を
 なくしたような、身体の時
 動に大きな支障を来たして
 いるもの（年金額一万八千
 円）
 ◇現行公的年金受給者
 ◇年所得十三万円以上の
 者
 ◇配偶者に所得税を納付
 すべき所得があるとき
 ◇扶養義務者の所得税、
 二万三千六百円以上の
 とき

